BUDŌ NEWS

今月のニュース

２０２６年度全日本学生柔道優勝大会



▼優勝決定直後の明治大学の選手たち。主将の伊澤直乙斗選手（右端）が大将戦を戦い抜いた時田開仁選手を抱きしめ健闘を讃（たた）えた

注目ニュース

2026年度全日本学生柔道優勝大会

明治大学が優勝 25年ぶりの頂点

学生柔道の団体日本一を決める2026年度全日本学生柔道優勝大会（男子75回・女子35回）が6月27・28日、日本武道館で開催された。結果は、男子の部では明治大学が25年ぶりの優勝、女子一部では東海大学が2年ぶりに優勝し王座を奪還、女子二部では大阪教育大学が初優勝した。

※詳細は、今月のニュース（86ページ～）をご覧ください。

【男子の部・決勝（大将戦）】明治大学・時田開仁（上）が払巻込で技ありを奪う

２０２６年度全日本学生柔道優勝大会

男子 明治大学が 25 年ぶりの優勝

国士舘大学との決勝を制す



２０２６年度全日本学生柔道優勝大会（男子75回・女子35回／主催＝全日本学生柔道連盟、毎日新聞社）が6月27・28日、日本武道館で開催された。男子の部では明治大学が国士舘大学を下し、25年ぶりの優勝を果たした。女子一部は東海大学が筑波大学を破り2年ぶりに優勝、女子二部は大阪教育大学が埼玉大学に勝利し初優勝した。

本大会は、全国9地区（北海道・東北・北信越・関東・東京・東海・関西・中国四国・九州）の予選を通過した大学が団体日本一の座を目指して戦う、学生柔道最高峰の大会の一つである。

男子の部は予選通過の62大学と、学連選抜チーム（東京地区）を合わせた63チームが、女子の部は一部・二部合わせて61チームが出場し、トーナメント戦によって覇を競った。

優勝＝明治大学

監　督＝中濱　真吾／指導者＝吉井　　健、森下　　正
主　将＝伊澤直乙斗／主　務＝福田　悠真
選　手（学年・身長・体重・出身高校）＝
伊澤直乙斗（４年・171㎝・ 81㎏・習志野）
千野根玄貴（４年・181㎝・120㎏・桐蔭学園）
片山　　涼（３年・180㎝・ 90㎏・國學院栃木）
大坂常汰朗（２年・180㎝・105㎏・崇徳）
堀　　優隼（２年・180㎝・100㎏・埼玉栄）
竹下　智哉（１年・177㎝・100㎏・福大大濠）
井出　翔真（４年・172㎝・100㎏・延岡学園）
奥田　泰地（３年・172㎝・ 81㎏・崇徳）
工藤　悠祐（３年・180㎝・110㎏・延岡学園）
中濱　洋希（２年・176㎝・105㎏・崇徳）
姥　三士郎（１年・175㎝・ 90㎏・東福岡）
時田　開仁（１年・181㎝・130㎏・大成）

■男子（７人制）

東京地区予選で優勝した明治大学は順調にトーナメント戦を勝ち進み、準決勝では前回大会優勝の日本大学を破り勢いに乗っている帝京科学大学を７―０で破り、決勝に進出した。

明治大学と決勝で相まみえるのは国士舘大学。準決勝ではグランドスラム・パリ大会金メダリストの新井道大を擁する強豪の東海大学と対戦し、５―１で勝利。３年ぶりの優勝に王手をかけた。

◇

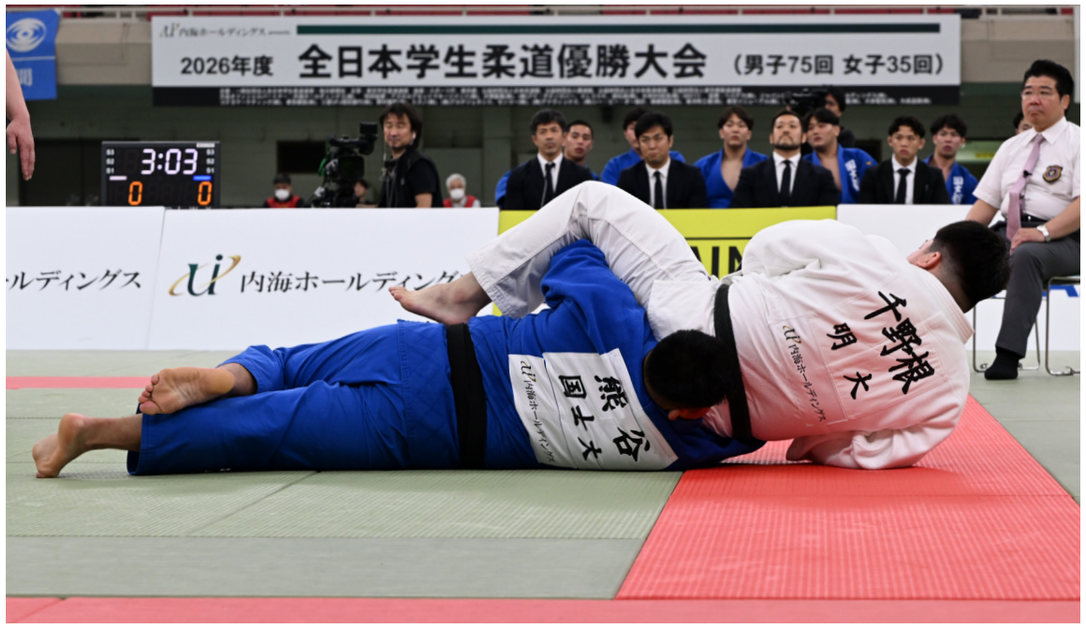
決勝の序盤戦。先鋒戦は明治大学・堀優隼が小内刈で技ありを奪い勝利、続く次鋒戦は国士舘大学・畠山凱が支釣込足で技ありを奪い勝利し、点の取り合いとなる。

五将戦では明治大学・千野根玄貴が内股巻込で一本を奪い、再び明治大学がリード。その後、中堅、三将、副将と引分が続き、国士舘大学が一本を追いかける展開で大将戦となる。

大将戦では、懸命に技を仕掛ける国士舘大学・三木望夢に対して、明治大学・時田開仁が試合終了間近に払巻込で技ありを奪う。そのままポイントを守り切った時田が一勝を挙げ、３―１で明治大学が25年ぶりの優勝を決めた。

◇

今大会の決勝は、25年前に明治大学が優勝した第50回大会（２００１年）と同じ顔合わせ。前回と同様に明治大学が勝利し、通算優勝回数は17回となった。



【男子の部・決勝（五将戦）】明治大学・千野根（右）が内股巻込で一本を奪い、明治大学が２勝と勝ち越した

▼【男子の部・決勝（先鋒戦）】
明治大学・堀（手前）が小内刈で技あり。チームに勢いをつけた



〈決勝〉

	明治大学	３－１	国士舘大学
先	堀　　優隼	㊀－ （小内刈）	竹市　裕亮
次	工藤　悠祐	－㊀ （支釣込足）	畠山　　凱
五	千野根玄貴	○－ （内股巻込）	熊谷　諒也
中	奥田　泰地	× （引分）	山本　由聖
三	伊澤直乙斗	× （引分）	横手　和輝
副	竹下　智哉	× （引分）	工藤　瑠希
大	時田　開仁	㊀－ （払巻込）	三木　望夢

女子一部 東海大学が優勝旗奪還

決勝は筑波大学に副将・大将戦で逆転勝利



■女子一部（5人制）

決勝はともに前回大会3位の東海大学と筑波大学の対戦。

先鋒戦は引分、次鋒戦では筑波大学・トーレスカミラが大内返で一本を奪い勝利、中堅戦は引分と筑波大学が優勢となる。

副将戦で東海大学・角田愛が豪快な裏投で一本を奪い、勝負を大将戦へ持ち越した。

同点で迎えた大将戦。1年生ながら大将を務める東海大学・山口千弘が、筑波大学・井上朋香から内股で技ありを奪い、そのまま袈裟固で合技の一本。東海大学が2年振りの優勝に返り咲いた。

この優勝で東海大学の通算優勝回数は山梨学院大学と並ぶ最多の9回となった。

優勝＝東海大学

監　督＝今井　優子／指導者＝富沢　裕一、内村　光暉
主　将＝近藤　美月／主　務＝荘司　理彩
選　手（学年・身長・体重・出身高校）＝
横山美月（3年・161㎝・57kg・八千代）
倉田夏苗（2年・158㎝・52kg・淑徳）
本田里來（2年・158㎝・57kg・敬愛）
角田　愛（4年・163㎝・70kg・トレビセンス）
森靜　玖（3年・165㎝・63kg・佐賀商業）
一美杏奈（2年・165㎝・63kg・熊本西）
横山七海（3年・166㎝・78kg・横須賀学院）
山口千弘（1年・169㎝・98kg・敬愛）

◉優勝インタビュー

・今井優子監督



「チームが一丸となって挑むということを大切にして戦いました。今回、怪我で出場できない主力選手が多かったのですが、その中でも選手一人一人が自分の役割をしっかり果たしてくれました」

・山口千弘選手



「最後の大将戦は『絶対に勝って東海大を優勝に導く』という気持ちで試合に臨みました。（決勝の試合終了後は）嬉しさもありましたが、同時にホッとした気持ちもありました」



◀【男子の部・決勝（次鋒戦）】
国士舘大学・畠山（右）が支釣込足で技ありを奪い同点にする

▼【男子の部・決勝（大将戦）】
明治大学・時田（左）が払巻込で技ありを奪い、寝技で攻めたてる

◉優勝インタビュー

・中濱真吾監督



「なかなか結果を出せない時期が続いていましたが、ようやく優勝でき、嬉しく思っています。応援してくれるOB、家族、仲間に恩返しができるようにと、選手が戦ってくれた結果だと思います」

・伊澤直乙斗主将



「東京大会優勝の勢いで全日本も優勝したいと思っていたので本当に嬉しいです。決勝は、自分が勝てなかったことの不満はありますが、チーム全体として気持ちを切らさずに試合できたと思います」

・千野根玄貴選手



「（五将戦での一本について）ここはしっかり勝たなければいけない、という気持ちで試合に臨みました。無我夢中の技でしたが、決め切ることができてよかったです」



２位＝国士舘大学



中濱監督を胴上げする明治大学の選手たち

優勝＝大阪教育大学

監　督＝石川　美久
指導者＝杉田　菜摘、宮下　真八
主　将＝長谷川　福／主　務＝木島理樹太
選　手（学年・身長・体重・出身高校）＝
長谷川　福（４年・158㎝・63㎏・高松商業）
笠間　芽伊（２年・158㎝・70㎏・加藤学園）
谷口　茉輝（２年・160㎝・48㎏・常翔学園）
手島みづき（１年・155㎝・57㎏・大分西）
森實　真江（１年・160㎝・63㎏・愛媛県立三島）



【大会結果】
■男子
◉優　勝＝明治大学
◎準優勝＝国士舘大学
○３　位＝帝京科学大学、東海大学
▽優秀校＝日本大学、筑波大学、
中央大学、桐蔭横浜大学
■女子一部
◉優　勝＝東海大学
◎準優勝＝筑波大学
○３　位＝環太平洋大学、帝京大学
▽優秀校＝国士舘大学、近畿大学、
明治国際医療大学、龍谷大学
■女子二部
◉優　勝＝大阪教育大学
◎準優勝＝埼玉大学
○３　位＝広島大学、日本経済大学
▽優秀校＝ＳＢＣ東京医療大学、
九州共立大学、同志社大学、
別府大学

〈決勝〉

	大坂教育大学	２－１	埼玉大学
先	長谷川　福	－○（大外刈）	舩山　葵音
中	手島みづき	○－（反則負け）	沖田　遥望
大	笠間　芽伊	○－（送襟絞）	若王子　咲月

◉優勝インタビュー＝石川美久監督
「ずっと日本一を目指していたので嬉しい限りです。（決勝は）中堅戦で１年生の手島選手が勝ってくれたことが優勝につながったと思います」

〈決勝〉

	東海大学	２－１	筑波大学
先	横山　美月	×（引分）	福永　葉子
次	本田　里來	－○（大内返）	トーレス カミラ
中	荘司　理彩	×（引分）	佐竹　優芽
副	角田　　愛	○－（裏投）	岡本　紗季
大	山口　千弘	○－（内股+袈裟固）	井上　朋香


【女子一部・決勝（副将戦）】
東海大学・角田（下）が裏投で一本を奪う


【女子一部・決勝（大将戦）】東海大学・山口（上）が内股で筑波大学・井上を崩し、袈裟固と合技で一本を奪った

■女子二部（３人制）

大阪教育大学が初優勝

決勝は初の決勝進出となる大阪教育大学と過去３回の優勝経験がある埼玉大学の対戦。

先鋒戦は埼玉大学・舩山葵音が大外刈で一本勝ちし、中堅戦は大阪教育大学・手島みづきが粘り強い柔道を展開し、相手の反則負けで勝利。

大将戦では、大阪教育大学・笠間芽伊が序盤に送襟絞で一本を奪い勝利。大阪教育大学が初の優勝に輝いた。


【女子二部・決勝（中堅戦）】
大阪教育大学・手島（左）が攻撃をしかける

日本武道館の単行本

剣道の文化誌　明治大学教授　長尾　進　著
四六判・上製・480頁・定価2,640円
本書では剣道の持つ文化としての多様な面を、時代を追いながら、わかりやすく紹介する。剣道を愛好する方には剣道を改めて見直すきっかけとして、剣道をあまりご存知ない方には剣道という日本文化の成り立ちを知るガイドとして、ぜひご一読を。

剣道 その歴史と技法　埼玉大学名誉教授　大保木輝雄　著
四六判・上製・516頁・定価2,640円
本書は戦国末期から江戸時代初期を起点に、今日に至るまでの剣道の歴史的発展の経緯を示した。戦国期以前の剣術の有り様を認識した上で改めて各時代の流れに沿った剣道史を考えてみたいという筆者の思いを実現すべく、連載終了後５年のときを経てついに単行本化。

柔道 その歴史と技法　筑波大学名誉教授　藤堂良明　著
四六判・上製・330頁・定価2,640円
柔道の技法が、どのように形づくられてきたのかを、体術の起こり、柔術諸流派の歴史に遡り、丁寧にひもとく。さらには、全日本選手権やオリンピックをはじめとした各種競技大会にみられる技法を分析し、今後の課題を探る。

空手道 その歴史と技法　小山正辰・和田光二・嘉手苅徹　著
四六判・上製・568頁・定価2,640円
空手は沖縄で発祥し、日本本土に伝承され、今や世界のKARATEとなった。その歴史と技法を、那覇系剛柔流の小山正辰氏、首里系松濤館の和田光二氏、沖縄空手研究の第一人者である嘉手苅徹氏の共同執筆で重層的に紐解く。嘉手苅氏が発見した剛柔流の開祖・宮城長順の最新の事実、小山・和田の両世界チャンピオンのエピソードなども満載。空手の真髄に迫る白眉の一冊。

マンガ・日本武道風土記（下巻）　漫画家・別府大学客員教授　田代しんたろう　著
B5判・並製・248頁・定価1,100円
全国の「武道ゆかりの地」を実際に訪ねて、ペンとスケッチブックを片手に徹底取材。地元関係者や施設の学芸員とのやりとり、その土地の成り立ちをわかりやすくマンガで紹介。多数の資料をもとに丹念に描いた当時の風景も魅力の一つ。マンガの世界で日本各地をめぐってみては。

死ぬまで弓道　弓道教士七段　小牧佳世　著
四六判・上製・342頁・定価2,640円
競技中に急性大動脈解離に倒れた筆者は奇跡的な生還を果たす。その８カ月後に弓道を再開し、わずか２年後に皇后盃で十射皆中、優勝を果たした。本書では激動の自伝を記し、弓のあり方や「早気」など弓道家の誰もが陥る課題などを模索する。死の淵を覗き、現在も全身全霊で弓を引き続ける筆者だからこそ記せた弓道伝記かつエッセイ

学校武道の歴史を辿る　筑波大学名誉教授　藤堂良明　著
四六判・上製・354頁・定価2,640円
明治維新を迎え、武術は衰退したが、近代化の過程で武道が「人間形成の道」として学校制度の中に組み込まれ、発展した。太平洋戦争後に武道は全面禁止となるが、それを乗り越え、「格技」として復活。平成24年度には「中学校武道必修化」が実現した。学校武道の歴史を丹念に辿り、今後のあり方を探る。

ご注文・お問い合わせ
（公財）日本武道館 月刊「武道」編集部
〒102-8321　東京都千代田区北の丸公園2-3
TEL 03-3216-5147　FAX 03-3216-5158
https://www.nipponbudokan.or.jp

第74回全日本学生剣道選手権大会
第73回全日本学生剣道東西対抗試合

憧れの舞台で、池田稀羅（日体大）が初優勝



【決勝】池田（左）が面を決める

第74回全日本学生剣道選手権大会（主催＝全日本学生剣道連盟、毎日新聞社）が7月4・5日に日本武道館で開催され、全国8ブロック（北海道・東北・関東・北信越・東海・関西・中四国・九州）の予選を突破した212名が学生剣道日本一の座かけて鎬（しのぎ）を削った。

決勝は池田稀羅（き・ら）（日本体育大学）と戸田優人（法政大学）の顔合わせ。延長戦を制し、池田が面を決めて一本勝ちで初優勝した。

選手権大会終了後に行われた東西対抗試合（各地域連盟から東西各20名と補欠5名を選出）では、東軍が6人を残して勝利し、2年連続の優勝となった。

初日の4日に1・2回戦を、2日目の5日に3回戦から決勝までの試合を、男女同時進行で行った。

◇

池田は準々決勝で森大颯（筑波大学）に面・胴を決めて二本勝ちを収める。準決勝では、小柳宏成（筑波大学）に先に胴を奪われるも、池田が果敢に攻め立て、面・突きを2本連取して逆転勝ちで決勝へ進んだ。

もう一方のブロックでは、戸田が準々決勝で福岡勇馬（中央大学）から面を、準決勝では武本瑠依（国士舘大学）から小手を奪い、決勝へ駒を進めた。

池田と戸田の決勝。どちらが勝っても初優勝となる。両者積極的に攻めるが、決め手を欠き延長戦へ。戸田が逆胴を外し、面が空いた一瞬の隙に、池田が面を放って見事に一本となった。昨年は大会の運営役員として目の前で行われる試合を見ていた池田が、憧れの舞台で初優勝に輝いた。


池田の優勝に湧く日本体育大学

優勝者コメント



優勝＝池田稀羅選手

「大学3年間やってきて、力が付いて勝てたと思います。入学当初は同期が強くて全然勝てませんでしたが、自分次第だと思ったので、苦しい稽古も集中して取り組みました。2年生になると下級生が入ってきて自分も頑張ろうという気持ちになりました。去年の個人戦は選考であと一歩のところで出られなくて悔しい思いをしました。『今年こそは』という気持ちで取り組んできたので、それが結果に繋がったと思いますがまさか、優勝できるとは思っていなかったです。決勝では打たせるだけ打たせて、空いたところを狙おうと考えていました。この結果に満足せず、来年もまたここに戻ってこられるよう、力を付けていきたいです」

○東西対抗は東軍が2年連続の勝利

寺坂（専修大）が驚異の9人抜き

選手権大会終了後に、東西対抗試合が行われた。試合は3分1本勝負の勝ち抜き戦で行われ、大将の試合のみ3分区切りの延長戦（2回）が行われる。

東軍・十三将の寺坂祥（専修大学）が9人を抜き、東軍が大きくリードする。その後も、東軍・十一将の久保冬晟（国士舘大学）が5人抜きをしてさらに差が広がり、ここで最後の砦（とりで）、西軍・大将の舩迫仁也（鹿屋体育大学）が登場。舩迫は久保を面で下し勝利を収める。舩迫は4人続けて勝ち抜く活躍を見せたが、東軍・七将の森大翼（中央大学）が小手で舩迫を下し、東軍が2年連続の優勝を果たした。



【東西対抗試合】
舩迫（西軍・大将）　対　森（東軍・七将／右）



中本和洋全日本学生剣道連盟会長から
東軍に優勝旗が授与された

【選手権大会結果】

◉**優　勝**
池田稀羅（日本体育大学・3年）

◎**準優勝**
戸田優人（法政大学・3年）

○**3　位**
小柳宏成（筑波大学・4年）
武本瑠依（国士舘大学・2年）

▽**敢闘賞**
森大颯（筑波大学・1年）
福岡勇馬（中央大学・4年）
赤星陽生（中央大学・4年）
寺村崚我（清和大学・4年）

【東西対抗試合結果】

◉**優　勝**＝東軍

★**優秀選手賞**

・東軍
廣政壮汰（東洋大学・2年）
寺坂祥（専修大学・4年）
久保冬晟（国士舘大学・4年）
森大翼（中央大学・4年）

・西軍
久保大悟（日本経済大学・4年）
石田海斗（中京大学・4年）
舩迫仁也（鹿屋体育大学・4年）

心技体 人を育てる総合誌
月刊 武道

◎日本武道館の単行本



日本の武道
日本武道館 編
（B5判・上製・箱入・526頁）
日本の武道の全てを網羅した、武道関係者必携の書。武道小百科事典としても役立つ充実した資料編を巻末に収録。



高め合う剣道
筑波大学名誉教授　佐藤成明 著
（四六判・上製・564頁）
教育剣道の実践者として長年の経験をもつ筆者が、古今の文献を手掛かりに日々の修錬で大事な事柄を綴る。



禅の思想と剣術
北海道大学大学院教授　佐藤錬太郎 著
（四六判・上製・386頁）
禅の思想と剣術がどう関わってきたか、武道伝書を基に検証し、剣術が剣道へと発展昇華していく過程をわかりやすく解説。



刀剣の歴史と思想
筑波大学大学院准教授　酒井利信 著
（四六判・上製・346頁）
日本人が、刀剣を単なる武器としてではなく、神聖なものとして捉える思想とは何か。日本刀剣思想の独自性を確かな史料を基に考察する。



人を育てる剣道
剣道範士八段　角 正武 著
（四六判・上製・268頁）
剣道の真価は、気力を練り上げ、肚をつくる修行にある。人間の土台をつくる剣道を目指す著者渾身の剣道指導論。

◉ご注文・お問い合わせ
〒102-8321　東京都千代田区北の丸公園2番3号
日本武道館 教育文化部出版広報課
TEL(03)3216-5147／FAX(03)3216-5158
http://www.nipponbudokan.or.jp/

◎日本武道館の単行本



剣道の文化誌　明治大学教授　長尾　進　著
四六判・上製・480頁・定価2,640円
本書では剣道の持つ文化としての多様な面を、時代を追いながら、わかりやすく紹介する。剣道を愛好する方には剣道を改めて見直すきっかけとして、剣道をあまりご存知ない方には剣道という日本文化の成り立ちを知るガイドとして、ぜひご一読を。



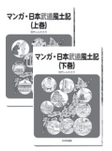
剣道 その歴史と技法　埼玉大学名誉教授　大保木輝雄　著
四六判・上製・516頁・定価2,640円
本書は戦国末期から江戸時代初期を起点に、今日に至るまでの剣道の歴史的発展の経緯を示した。戦国期以前の剣術の有り様を認識した上で改めて各時代の流れに沿った剣道史を考えてみたいという筆者の思いを実現すべく、連載終了後5年のときを経てついに単行本化。



柔道 その歴史と技法　筑波大学名誉教授　藤堂良明　著
四六判・上製・330頁・定価2,640円
柔道の技法が、どのように形づくられてきたのかを、体術の起こり、柔術諸流派の歴史に遡り、丁寧にひもとく。さらには、全日本選手権やオリンピックをはじめとした各種競技大会にみられる技法を分析し、今後の課題を探る。



空手道 その歴史と技法　小山正辰・和田光二・嘉手苅徹　著
四六判・上製・568頁・定価2,640円
空手は沖縄で発祥し、日本本土に伝承され、今や世界のKARATEとなった。その歴史と技法を、那覇系剛柔流の小山正辰氏、首里系松濤館の和田光二氏、沖縄空手研究の第一人者である嘉手苅徹氏の共同執筆で重層的に紐解く。嘉手苅氏が発見した剛柔流の開祖・宮城長順の最新の事実、小山・和田の両世界チャンピオンのエピソードなども満載。空手の真髄に迫る白眉の一冊。



マンガ・日本武道風土記（上巻・下巻）　漫画家・別府大学客員教授　田代しんたろう 著
B5判・並製・248頁・定価1,100円
全国の「武道ゆかりの地」を実際に訪ねて、ペンとスケッチブックを片手に徹底取材。地元関係者や施設の学芸員とのやりとり、その土地の成り立ちをわかりやすくマンガで紹介。多数の資料をもとに丹念に描いた当時の風景も魅力の一つ。マンガの世界で日本各地をめぐってみては。



死ぬまで弓道　弓道教士七段　小牧佳世 著
四六判・上製・342頁・定価2,640円
競技中に急性大動脈解離に倒れた筆者は奇跡的な生還を果たす。その8カ月後に弓道を再開し、わずか2年後に皇后盃で十射皆中、優勝を果たした。本書では激動の自伝を記し、弓のあり方や「早気」など弓道家の誰もが陥る課題などを模索する。死の淵を覗き、現在も全身全霊で弓を引き続ける筆者だからこそ記せた弓道伝記かつエッセイ



学校武道の歴史を辿る　筑波大学名誉教授　藤堂良明 著
四六判・上製・354頁・定価2,640円
明治維新を迎え、武術は衰退したが、近代化の過程で武道が「人間形成の道」として学校制度の中に組み込まれ、発展した。太平洋戦争後に武道は全面禁止となるが、それを乗り越え、「格技」として復活。平成24年度には「中学校武道必修化」が実現した。学校武道の歴史を丹念に辿り、今後のあり方を探る。

ご注文・お問い合わせ
（公財）日本武道館 月刊「武道」編集部
〒102-8321　東京都千代田区北の丸公園2-3
TEL 03-3216-5147　FAX 03-3216-5158
https://www.nipponbudokan.or.jp

第60回全日本女子学生剣道選手権大会
第20回全日本女子学生剣道東西対抗試合

村田結依（中央大）が連覇を達成



【決勝】村田（右）が面を決める

第60回全日本女子学生剣道選手権大会（主催＝全日本学生剣道連盟、毎日新聞社）が7月4・5日に日本武道館で開催され、全国8ブロック（男子と同様）の予選を勝ち上がった120名が女子学生剣道日本一を目指して戦った。

決勝には村田結依（中央大学）と佐藤悠月（山形大学）が勝ち上がり、延長の末、村田が面を決めて連覇を果たした。

女子選手権大会終了後に東西対抗試合（各地域連盟から東西各10名と補欠4名を選出）が行われ、大将同士の戦いの末、東軍が2年連続で勝利した。

前回大会優勝の村田は準々決勝で、森田有星（法政大学）に面を決めて一本勝ちを収める。準決勝では、夏井彩綺（環太平洋大学）に小手を決めて一本勝ち。盤石の強さを見せつけた。

もう一方のブロックでは、前回大会準優勝の佐藤が決勝に勝ち上がった。準々決勝では樋口恵淑（鹿屋体育大学）に面を、準決勝で福岡さくら（中央大学）に面を決め、面が冴えた試合展開となった。

決勝は、前回大会と同じ顔合わせ。連覇を狙う村田に対し、4年生で本大会最後の出場となる佐藤。互いに決め手を欠き、3度目の延長戦へ突入する。佐藤が突きを放った後、胴を警戒して手元を下げたところに村田が面を決め、一本。村田が連覇を達成した。


決勝を前に面をつける村田


健闘を労（ねぎら）う
中央大学・北原修監督（右）

優勝者コメント


優勝＝村田結依選手

連覇を果たした村田選手に今回の優勝の感想を伺うと「ホッとしました」と笑顔を見せた。

「連覇をしたいという気持ちも少しはありましたが、簡単なことではないので、目の前の試合を一戦一戦集中して戦おうと思って臨みました。（決勝について）時間内に決めたかったのですが、最後まで諦めないで戦いました。去年のままだとこの2連覇はなかったと思います。去年以上に練習したのと、2連覇や去年優勝したことは意識せずに、その日の稽古をやってきました」

次の目標については「全日本女子剣道選手権大会の予選を勝ち抜くことと秋の団体戦です。中央大学で日本一になりたい」と力強く答えた。



村田選手に賞状が授与された


中央大学メンバーの記念撮影

○東西対抗試合は東軍が勝利

西軍・八将の緒方未琴（中京大学）が2人抜き、同じく西軍・中堅の西希月（環太平洋大学）も2人抜きをする展開となった。追いつきたい東軍は大将の岩原千佳（筑波大学）が、西軍の四将・三将・副将にいずれも面を決め、大将同士の戦いへともち込んだ。

東軍・岩原と西軍・林美陽（鹿屋体育大学）との対戦は、岩原が面を決め、東軍が前回大会に続き勝利を収めた。


【東西対抗試合】
遠藤実（西軍・副将）　対　岩原（東軍・大将）
岩原（右）が面を決め、大将同士の戦いに勝敗は委ねられた


東軍に優勝旗と優勝カップが手渡された


試合の様子

【女子選手権大会結果】

◉優　勝
村田結依（中央大学・3年）

◎準優勝
佐藤悠月（山形大学・4年）

○3　位
夏井彩綺（環太平洋大学・2年）
福岡さくら（中央大学・2年）

▽敢闘賞
森田有星（法政大学・2年）
樋口恵淑（鹿屋体育大学・4年）
櫻井小雪（法政大学・3年）
福西凛花（慶應義塾大学・4年）

【東西対抗試合結果】

◉優　勝＝東軍

★優秀選手賞
・東軍
岩原千佳（筑波大学・4年）
鈴木瞳（法政大学・4年）
東海穂香（立教大学・2年）
・西軍
緒方未琴（中京大学・3年）
西希月（環太平洋大学・3年）

心技体 人を育てる総合誌
月刊 武道

日本武道館の単行本

剣道の文化誌　明治大学教授 長尾　進　著
四六判・上製・480頁・定価2,640円
本書では剣道の持つ文化としての多様な面を、時代を追いながら、わかりやすく紹介する。剣道を愛好する方には剣道を改めて見直すきっかけとして、剣道をあまりご存知ない方には剣道という日本文化の成り立ちを知るガイドとして、ぜひご一読を。

マンガ・日本武道風土記 上巻　漫画家・別府大学客員教授 田代しんたろう 著
B5判・並製・248頁・定価1,100円
全国の「武道ゆかりの地」を実際に訪ねて、ペンとスケッチブックを片手に徹底取材。地元関係者や施設の学芸員とのやりとり、その土地の成り立ちをわかりやすくマンガで紹介。多数の資料をもとに丹念に描いた当時の風景も魅力の一つ。マンガの世界で日本各地をめぐってみては。

剣道 その歴史と技法　埼玉大学名誉教授 大保木輝雄　著
四六判・上製・516頁・定価2,640円
本書は戦国末期から江戸時代初期を起点に、今日に至るまでの剣道の歴史的発展の経緯を示した。戦国期以前の剣術の有り様を認識した上で改めて各時代の流れに沿った剣道史を考えてみたいという筆者の思いを実現すべく、連載終了後5年のときを経てついに単行本化。

死ぬまで弓道　弓道教士七段 小牧佳世 著
四六判・上製・342頁・定価2,640円
競技中に急性大動脈解離に倒れた筆者は奇跡的な生還を果たす。その8カ月後に弓道を再開し、わずか2年後に皇后盃で十射皆中、優勝を果たした。本書では激動の自伝を記し、弓のあり方や「早気」など弓道家の誰もが陥る課題などを模索する。死の淵を覗き、現在も全身全霊で弓を引き続ける筆者だからこそ記せた弓道伝記かつエッセイ

柔道 その歴史と技法　筑波大学名誉教授 藤堂良明　著
四六判・上製・330頁・定価2,640円
柔道の技法が、どのように形づくられてきたのかを、体術の起こり、柔術諸流派の歴史に遡り、丁寧にひもとく。さらには、全日本選手権やオリンピックをはじめとした各種競技大会にみられる技法を分析し、今後の課題を探る。

学校武道の歴史を辿る　筑波大学名誉教授 藤堂良明 著
四六判・上製・354頁・定価2,640円
明治維新を迎え、武術は衰退したが、近代化の過程で武道が「人間形成の道」として学校制度の中に組み込まれ、発展した。太平洋戦争後に武道は全面禁止となるが、それを乗り越え、「格技」として復活。平成24年度には「中学校武道必修化」が実現した。学校武道の歴史を丹念に辿り、今後のあり方を探る。

空手道 その歴史と技法　小山正辰・和田光二・嘉手苅徹　著
四六判・上製・568頁・定価2,640円
空手は沖縄で発祥し、日本本土に伝承され、今や世界のKARATEとなった。その歴史と技法を、那覇系剛柔流の小山正辰氏、首里系松濤館の和田光二氏、沖縄空手研究の第一人者である嘉手苅徹氏の共同執筆で重層的に紐解く。嘉手苅氏が発見した剛柔流の開祖・宮城長順の最新の事実、小山・和田の両世界チャンピオンのエピソードなども満載。空手の真髄に迫る白眉の一冊。

ご注文・お問い合わせ
（公財）日本武道館 月刊「武道」編集部
〒102-8321　東京都千代田区北の丸公園2-3
TEL 03-3216-5147　FAX 03-3216-5158
https://www.nipponbudokan.or.jp